

観峰館
本館4階 夏季平常展示

帰ってきました！？

らくがきのふしぎ 展

展示案内パンフレット

どうも、ご無沙汰し
ております。
ふたたび、らくがき
の世界へようこそ！



「らくがきのふしぎ」展

ナビゲーター

らくがきくん

2020年6月20日（土）～8月30日（日）

* 出品作品は、キャプション左下の番号順にご覧ください。

ごあいさつ

—らくがきの世界へようこそ—

2010年秋に開催した「らくがき」展が、およそ10年ぶりに帰ってきました！

この展覧会は、観峰館が所蔵する和本・教科書の中から、旧所蔵者（元の所有者）が思いのままに書き遺したメッセージを「らくがき」ととらえ、その書物が歩んだ歴史を紐解いていくものです。「らくがき」には、思いのままに書き遺されたもの、自分の所有物であることを明記するもの、見るだけで楽しい気持ちになるもの、などがあります。おそらく、「らくがき」を書いた人物は、自分の「らくがき」が注目されるなんて思ってもみなかったでしょう、だって、人に見てもらうために書いてないのですから（笑）

この展覧会を通して、「らくがき」の面白さ、そして不思議さを、たっぷり味わってください！！

らくがきって何だ？

和本や教科書に書き残されている、名前や住所を見てください…そこから私たちは、その書物が、誰が、いつ、どこで使用していたかを知ることができます。名前や住所を書いた本人は、その書物に対して、所有していることを示すために名前を書いており、他の人が見ることをあまり想定せずに書いています。この展覧会では、そのような書き込みを「らくがき」とします。

「らくがき」は、名前以外にも、さまざまな情報を私たちに伝えてくれます。たとえば、その書物を使用する人物や地域の移り変わり、いつの時代にその書物を所有していたか、書物を所有した経緯、などです。また、複数の資料から、共通する情報を見つけることができれば、個々に存在していた資料が1つのグ

ループとなり、その人物や資料の情報をより多く集めることが可能となります。

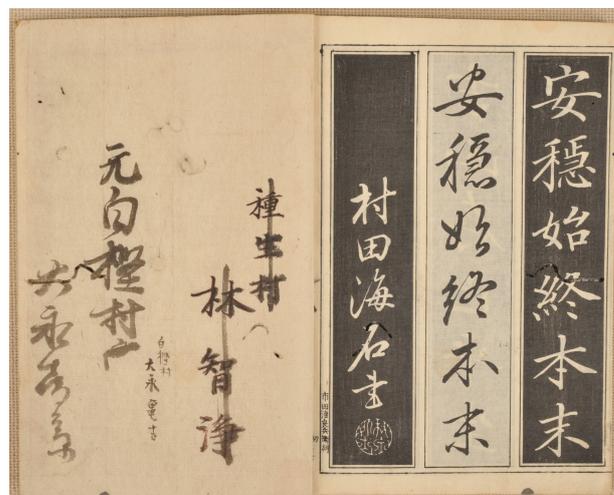
もちろん、書かれた当時から、何の目的や意味も持たない「らくがき」もたくさん存在します。しかしその「らくがき」もまた、それを書いた人物が、いつの時代に生き、どのようなことに興味関心を持っていたかを知る得る情報となるのです。

らくがきが教えてくれたこと（1）

展示の和本や教科書には、所有者の名前が書かれています。所有者が誰であるかが分かることを目的としており、他の人が見ることをあまり想定していないので、整った文字で書いておらず、また文字には間違いや当て字があるため、意味が通らないものがあります。このように難解^{なんかい}な「らくがき」ですが、さまざまな情報を教えてくれます。

たとえば、複数の名前が書かれている場合は、その所有者が変更したことが分かります。家族間で移動することもあれば、他人同士、また遠隔地^{えんかくち}への移動も見られます。書かれた住所からは、市町村合併^{がつぱい}の経過をふまえ、所有していた時期を推測できます。

中には、「購^{あがない}求^{もとむ}」や「調^{これをと}之^{とのう}」など、購入したことを示したものや、その日付を書いているものもあります。ここから、この書物がようやく手に入ったという喜びが伝わってきます。名前の他に「所持^{しよじ}」と書いているものもあります。そこには、その所有をはっきりと示したいという思いがあるのでしょうか。

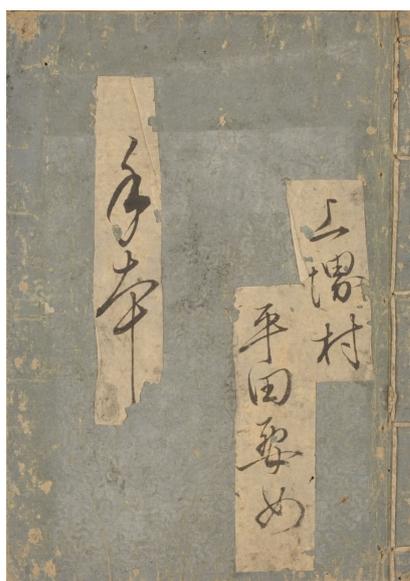


No.36 真行習字手本 最終頁

「らくがき」からは、当時の書物は貴重なものであり、大切に思う気持ちが伝わってきます。

らくがきが教えてくれたこと（2）

展示の作品の中から、^{かみさかいむら}上堺村（^{みはらくん}三原郡、現在の^{すもと}兵庫県洲本市）に住む、平田由永・要女の二人（作品No.11～17）に注目してみましょう。まず、「平田」姓、住



No.14 手本（平田要女旧蔵） 表紙

所が同じことから、この二人の間には^{けつえん}血縁^{かんけい}関係が想定できます。そして、平田由永という人物は、その所有していた書物から、^{いりょう}医療に^{じゅうじ}従事する人物であることが推測できます。

一方、平田要女が用いた肉筆手本は、全部で4冊あり、仮名や往来物、御用文章や実用的な内容など、さまざまな文字を習得している様子が分かります。そして、両者の関係を

考えるならば、要女が、当時としては珍しく、医療従事者の家庭に生まれた女性として熱心に習字教育を受けていたことをうかがわせます。

また、白石家の場合（作品No.19～21）はどうでしょうか。展示では、同じ出版年の手習い本に、三人の異なる「白石」姓の名前が書いてあります。この三人には親族関係だけでなく、兄弟関係も推測でき、かつ、男性、女性で異なる手本を使用していた様子もうかがえます。

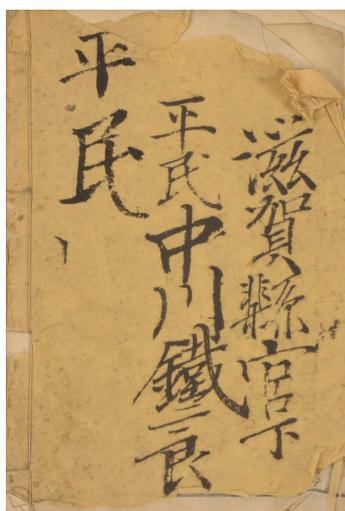
らくがきが教えてくれたこと（3）

所有者が名前を書くのは、漢字だけではありません。明治時代に入ると、学校によって英語を学ぶ機会が増えてくると、英語（^{ひっきたい}筆記体）で名前を書いている

ものが出てきます（作品No.22、24）。ただし、英語だけというものは少なく、傍に漢字の名前を添えているものが多いのは、英語に自信がなかったからでしょうか。あるいは、紛失時に誰でも分かるようにしていたのかもしれませんが。

展示作品の中には、作品No.26のように「平民」と書いているものがあります。平民とは、明治維新後の明治2年（1869）に創設された^{ぞくしょう}族称です。明治時代の市民は、

^{しのうこうしょう}士農工商が^{てっばい}撤廃され^{しみんびょうどう}四民平等がうたわれ、華族、士族以外のほとんどが平民となりました。あえて「平民」と書くのは、そのような歴史的背景の中で、自分自身の身分を改めて認識しようとする意識が働いたからではないでしょうか。



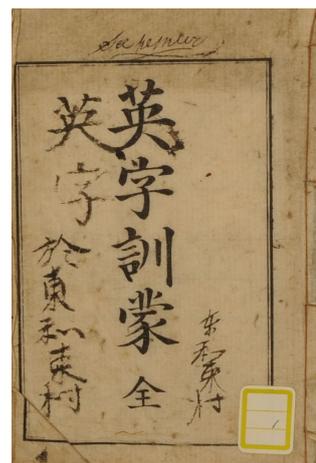
No.26 地理初歩 裏表紙

住所を書くことにも、同様の意味があり、^{はいはんちけん}廃藩置県によって全国への往来が自由になると、自分がどこに住んでいるか、その出身地を再確認するという気持ちが強くなるのでしょ...時代のゆらめきが見えてきます。

らくがきが教えてくれたこと（4）

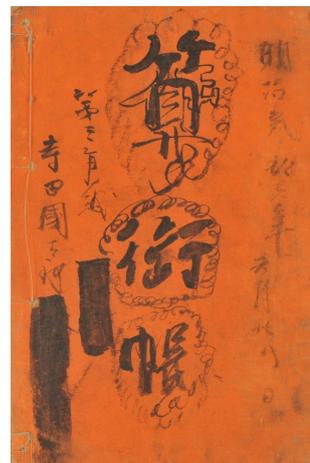
当時の教科書が貴重であったことは、作品No.26の「^{ちりしよほ}地理初歩」を写した写本の教科書（作品No.27）の存在からもうかがえます。1冊の教科書をすべて写す、しかも墨と筆という^{しゅうせい}修正ができない筆記用具で写すことは、たいへんな苦勞があったことでしょう。

同じような教科書を写す試みが、作品No.31からもうかがえます。表紙（「^{しょうがく}小学



No.22 英字訓蒙 表紙

どくほん
読本) や裏表紙 (「算術帳」) の「らくがき」は、意味のないもののように思
えませんが、展示している最初の頁の右側に、「小学読本」
の内容が書かれている文字が透けて見えることから、こ
の所有者も、教科書を写そうとしていたことが分かります。
但し、途中で頓挫したのでしょうか、現在では、「反
古紙」として使用されています。



紙も貴重な時代であり、使用済の紙を「反古紙」とし
て使用することは、平田要女が所有した手本（作品No.15、No.31 大和地理歴史 裏表紙
17）の表紙に、別の文字が書かれた紙が使用されていることから分かります。
物を大切に作る気持ちが、ここからも伝わってきますね。

おわりに

～らくがきを通して伝えたいこと～

和本や教科書は、出版されたものであり、複数存在しているために、博物館
の資料の中では、その価値はあまり高くはありません。しかし、そのような書
物にある「らくがき」は、実は、世界に一つしかない貴重な「資料」なのです。

「らくがき」から得られた情報は、当時の人びとの生活やモノに対する考え
方をよく伝えていきます。また、現代の情報があふれた時代に、「らくがき」から
得られた僅かな情報を通して、私たちに書物を大切に作る気持ちを思い出させ
てくれました。そして、毛筆に慣れた時代とはいえ、文字を書くのが上手いこ
とにも驚かされたと思います。

最後に、改めて「らくがき」に注目してごめんなさい、と言っておきましょ
う（笑）

2020年6月20日印刷・発行
編集 公益財団法人 日本習字教育財団 観峰館
所在地 〒529-1421 滋賀県東近江市五個荘竜田町 136
TEL 0748-48-4141 FAX 0748-48-5475
<http://www.kampokan.com>